

R8.2.1 9(木)開催 令和7年度第5回 宮若市地域ケア会議 アドバイザーとして参加

令和8年2月19日木曜日、午前10時～午前11時30分まで、宮若市地域ケア会議に

精神保健福祉士の立場でのアドバイザーとして、当院 認知症医療センター室長の江頭が参加させて頂きました。

地域ケア会議では、江頭の他に、介護支援専門員、主任介護支援専門員、薬剤師、在宅介護支援センターなどの他職種の専門職で、対象者の自立に向けての解決方法等に議論しました。

参加者は事例提供者を含めて、14名でした。

今回は、困難事例をテーマに『眠れないとよく話す利用者』、『本人、家族の思いのすれ違いがあり、気持ちの苛立ち、苛立ちから口論になっていく利用者たち』というテーマで、合計2名の方の検討が行われ、精神保健福祉士の立場から、生活面や医療面等のアドバイスをさせて頂きました。

今回の地域ケア会議で共通したキーワードとして、精神保健福祉士として『見立て』であると感じました。クライアントの主訴に応じて、必要な形で、適切な医療機関が介入し、病気であるかどうかの鑑別、また、精神科の受診歴があるクライアントに対して、どのような病気で、どのような認識で治療にあたっていたのか、その思いをクライアントとの関わりの中で探求し、クライアントが困っていることに手を差し伸べることにより、よりよい関係性や進展が生まれる可能性があることを感じたひとときでした。

最後になりますが、参加者の皆様を始め、



このような機会を頂きました、宮若市地域包括支援

会議の様子です

センターの皆様、関係者の皆様方に大変感謝いたします。

